

カサ・ビエハ (Casa Vieja)

制作年：2010年

上映時間：95分

ジャンル：長編劇映画、カラー

制作国：キューバ、ICAIC

言語：スペイン語

監督：レスター・ハムレット

脚本：ミハイル・ロドリゲス／レスター・ハムレット

総制作：カルロス・デ・ラ・ウエルタ

撮影：ラファエル・ソリス

音楽：アルド・ロペス・ガビラン

編集：アドリアン・ガルシア

サウンド：マイケル・バルサガス



出演

ヤディエル・フェルナンデス (エステバン)

ダイシィ・キンターナ (姉ラウラ)

アルベルト・ブホル (兄ディエゴ)

スサーナ・テヘーラ (義姉ダリア)

アドリア・サンターナ (母オネリア)

イサベル・サントス (隣人フローラ)

マウネル・ポルト (叔父イヒニオ)



原案：アベラルド・エストリーノ作、古典的戯曲ラ・カサ・ビエハ (1964年)

あらまし：

父の死が近いことを知り、スペインに在住の主人公の建築家エステバンは、14年ぶりに、キューバの生家に帰る。そこから始まる36時間の物語。空港で迎えたのは、最愛の姉ラウラ。ハバナ市西部の海岸にあるサンタ・フェにある家に帰ってみると、最初は14年ぶりの再会の感動があったが、次第的に、それぞれの家族が問題を抱えていることが分かり始める。母のオネリアは、40年連れ添った夫の容体の悪化に悲嘆にくれている。ラウラは、妻子ある男との隠れた愛に疲れている。



兄のディエゴは、融通性のない共産党員で、男性優位主義者。その妻、ダリアは、海外からの家族送金で生活している。叔父のイヒニオは、米国への移住を心待ちにしている。それぞれが、

生きるために秘密を持ち、ウソをつき、不満と夢をもっている。エステバンは、一見普通に見える同性愛者だが、家族は同性愛を嫌悪している。父の死を機会にいろいろな点で激しい言い合いとなり、エステバンは、再び家を去っていく。彼に母が渡したのは、彼の小屋の鍵であった。

受賞歴：

2010年、第32回国際ラテンアメリカ新映画祭審査員賞

2010年、第32回国際ラテンアメリカ新映画祭大衆性最優秀賞

監督 レスター・ハムレット

映画、演劇監督

1971年ハバナに生まれる。

1991年芸術教育大学卒業。演劇監督専攻。キューバの映画・テレビ国際学校で学ぶ。キューバ芸術大学(ISA)で視覚コミュニケーション学部で学ぶ。キューバ全国作家・芸術家同盟 (UNEAC) 会員。



作品歴

1991年 古い物語 (演劇)

以後、演劇監督、ビデオ・クリップ作品多数

2004年 リラの物語 (監督・脚本)

2006年 反抗期 (編集)

2008年 彼、あなたがた、私達 (監督・脚本)

2010年 カサ・ビエハ (長編劇映画、監督・脚本)

2011年 寓話 (長編劇映画、監督・脚本)

女優イサベル・サントス

1961年、カマグエイ生まれ。国立芸術高等学校 (ENA) 卒業。その後、演劇、テレビ、映画で活躍。数々の連続テレビ小説で主役を演じる。

1983年、フアン・カルロス・タビオ監督の「交換」に出演。



1987年、フェルナンド・ペレス監督の「地下活動」で主演。

1998年、フェルナンド・ペレス監督の「口笛高らかに」で主演。

2000年、ウンベルト・ソラス監督の「オチュンのための蜜」で主演。

2005年、ウンベルト・ソラス監督の「バリオ・クーバ」で主演。

キューバのほとんどの実力派監督の作品に出演。堅実な演技には定評がある。